

このマップは、最大規模の高潮による浸水想定区域を示したマップです。兵庫県が実施したシミュレーションに基づいて作成しています。

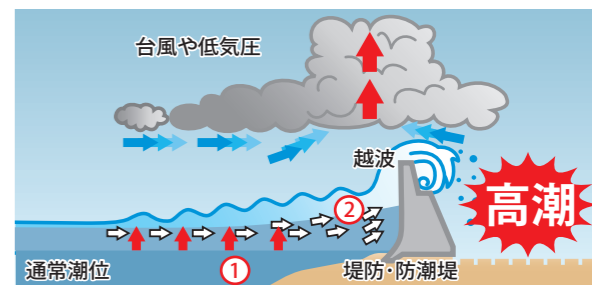
日本に来る台風の多くは、赤道付近の海上で発生し、勢力を拡大しながら日本に接近します。近年は地球温暖化の影響による海水温の上昇などのため、台風が巨大化しており、高潮による被害が激化する可能性があります。

「もしも高潮が発生したら…」を想定し、どの程度の被害となるのか、発生しそうな時に何をすればよいのか、日頃から何に気を付けて備えておくべきなのかについて考えてみましょう。

高潮のメカニズム

高潮は、「吸い上げ」や「吹き寄せ」という現象により、海水が堤防や防潮堤を越えたり、破壊して発生する浸水です。これらの現象が満潮時と重なると、より一層被害は大きくなります。

- ①吸い上げとは  
台風など低気圧が接近したときに、空気が海面を押さえつける力が弱くなり海面が持ち上げられること。
- ②吹き寄せとは  
海上から海岸に向かって風が吹き続けることにより、海面が高くなること(風が長く吹き続けるほど海面は高くなります)。



注意する場所 河川沿い

高潮は河川を遡上します。そのため、海から離れた場所でも河川を遡上してきた高潮により氾濫する可能性があります。台風襲来時には、大雨で河川の水位も増大しており、大変危険です。



注意する場所 港内

港内では波と波がぶつかりあい、さらに波が大きくなる場合があります。



【高潮浸水想定区域】

高潮浸水想定区域は、日本に接近した想定最大規模\*の高潮による浸水区域や深さを示したものです。  
\*室戸台風相当の中心気圧(910hPa)、伊勢湾台風相当の半径(75km)・移動速度(時速73km)の台風が、満潮時に潮位偏差が最大となるようなコースで接近することを想定。  
\*堤防等の全ての防護施設が破壊されることを基本とするなど最悪の事態を想定。



凡例

高潮浸水想定区域・最大浸水深	5.0~10.0m未満
	3.0~5.0m未満
	0.5~3.0m未満
	0.5m未満